

多自然川づくりの先駆的技術の導入支援

～多自然川づくりサポートセンターの取組みについて～

Supporting introduction of advanced technology for rivers with abundant nature ～Activity of Support Center for rivers with abundant nature～

自然環境グループ 研究員 金子 祐
 自然環境グループ グループ長 森 吉尚
 主席研究員 吉田 邦伸
 主席研究員 中村 圭吾
 自然環境グループ 研究員 内藤 太輔
 水循環・まちづくり・防災グループ 研究員 和田 彰

1. はじめに

近年、気候変動の影響により水災害が激甚化しており、これに対応するため大規模な河道掘削や樹木伐採を伴う河川改修事業が全国で実施されている。このような状況の中、豊かな河川環境を保全していくために、川の営みを活かして治水と環境を一体とした「多自然川づくり」の重要性がこれまで以上に高まっている。

(公財)リバーフロント研究所では、「多自然川づくりサポートセンター」として全国の多自然川づくりへの技術支援を継続的に実施している。本稿では令和3年度の活動内容を中心に最近の活動について報告する。

2. 多自然川づくりサポートセンターとは

「多自然川づくりサポートセンター」は、現場における多自然川づくりの知見、優良事例の収集、収集した知見の全国発信・普及を行うことを目的として、平成20年2月から当研究所が事務局となり運用が開始され、令和4年7月22日より「多自然川づくりサポート」と名称を改め「リバフロサポートセンター」の一環として運用されている。活動の目的は以下のとおりである。

- (1) 技術資料の作成・公表
- (2) 技術の普及・人材育成
- (3) 河川整備の現場からの問い合わせ対応
- (4) 川づくりのプロセスに関するサポート

3. 令和3年度の活動実績

多自然川づくりサポートセンターでは、上述した近年の「多自然川づくり」を取り巻く状況を踏まえ、喫緊の課題である技術の普及を目的とし、これまでに蓄積してきた研究成果等を活用し、ウェブセミナーの開催や講演動画の公開、「多自然川づくり」に関する研修会への講師派遣など情報発信を大幅に強化している。

<令和3年度 活動実績>

- ①「大河川における多自然川づくりウェブセミナー」
 - 第1回(令和3年6月17日〔木〕開催)
テーマ：高水敷掘削後の土砂再堆積にみられる河川・流程毎の違いと対応策
 - 第2回(令和3年9月2日〔木〕開催)
テーマ：川と人・地域の関わりをもっと豊かに
—大河川の自然と広い空間を活かした魅力的な水辺整備を考える—
 - 第3回(令和3年10月21日〔木〕開催)
テーマ：河道内樹林の再繁茂対策について
 - 第4回(令和3年11月12日〔金〕開催)
テーマ：—河川環境を定量的に把握するツール—
河川環境管理シート
- ②「生態系ネットワークウェブセミナー」
開催日：令和3年12月9日〔木〕
- ③「多自然川づくり」に関する研修会への講師派遣
講演日：令和3年6月25日、令和4年1月17日

①「大河川における多自然川づくり ウェブセミナー」 (大河川 QA ウェビナー) の開催・講演動画の公開

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、主にオンラインによる情報発信をより効果的に実施するため、当研究所では、令和3年6月より連続ウェブセミナーを開催し、講演動画を当研究所ホームページにてアーカイブ配信している。



図一 1 ウェブセミナー開催の様子

本セミナーは、国土交通省水管理・国土保全局河川環境課より公表されている「大河川における多自然川づくり～Q&A形式で理解を深める～」(通称「大河川QA」)を基に、河道掘削や樹木管理における多自然川づくりのポイントをQ&A執筆者より解説した上で、参加者の皆様との意見交換を行うことで、大河川における多自然川づくりへの理解を深めることを目的としている。

令和3年度には、4回にわたって(6・9・10・11月開催)セミナーを開催し、申込者は合計で約2000人を数えた(図-2)。参加申込者の職種内訳は、おおそ行政関係者が4割、コンサルタント関係者が5割で全体の約9割を占めており、その他が大学関係者等となっている。また、行政関係者の勤務地分類でみると、全国から視聴頂けたことが分かった(図-3)。

令和4年度にも5、7月にセミナーを実施しており、今後も継続して実施していく予定である。

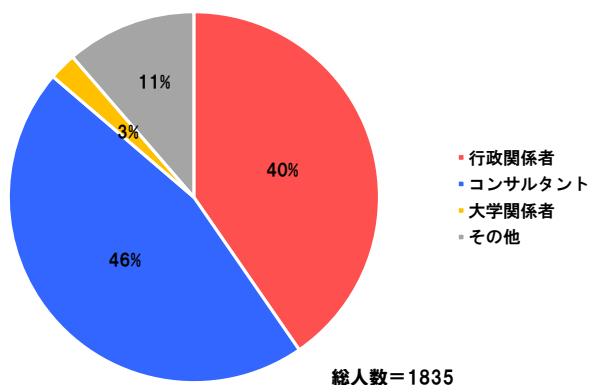


図-2 参加申込者の職種分類

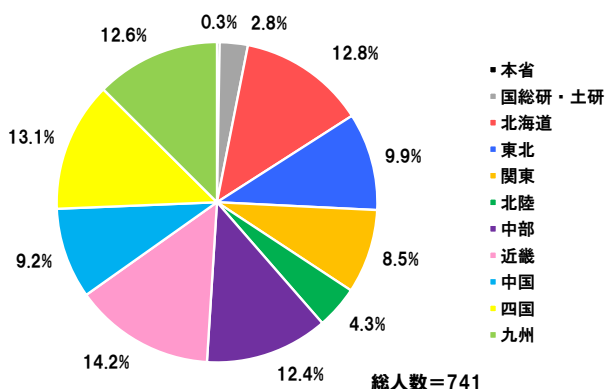


図-3 参加申込者(行政関係者)の勤務地分類

②「生態系ネットワーク」ウェブセミナーの開催

令和3年6月に国土交通省水管理・国土保全局河川環境課から公表された「河川事業における生態系保全に関する評価の手引き(実務者向け)(案)」のポイントや具体的な事例の解説等を行政、研究者等の方々から紹介して頂いた。

本手引きは、川づくり・地域づくりを行う際に、流域の魚や鳥たちの生態系ネットワーク構築に向けた評価を行うための手引書である。

セミナーには約400名の方々に申し込みを頂き、参加申込者の職種内訳は、おおそ行政関係者が2割、コンサルタント関係者が7割で全体の約9割を占めており、その他が大学関係者等となっている。

③「多自然川づくり」に関する研修会への講師派遣

令和3年度は2つの講習会に講師を派遣した。講習会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインでの開催となった。

<令和3年度 講師派遣実績>

- 「宮崎県自然豊かな水辺の工法研究会 研修会」
講演日：令和3年6月25日
講演タイトル：「川の営みを活かし治水と環境の融合した川づくりについて」
- 「“いい川”づくり研修会・鹿児島2021」
講演日：令和4年1月17日
講演タイトル：「『大河川の多自然川づくり』について」

4. おわりに

大規模な水災害の頻発を受けて、流域治水や緊急治水対策プロジェクト、グリーンインフラへの取組みが各地で始まっている中で、今後益々多自然川づくりに関する技術情報の重要性は高まるものと考えられる。

一方で、新型コロナウイルス感染症への対応から、新たな形態での技術情報の発信、技術指導の実施が求められている。

これらの状況を踏まえサポートセンターでは、より多くの方々へ広く情報を発信できるコンテンツ・ツールを充実し、今後も最新の多自然川づくりに関する知見、優良事例の発信・普及に努めていきたい。

<参考文献>

- 1) (公財)リバーフロント研究所:多自然川づくり,
<http://www.rfc.or.jp/theme04-2.html>
- 2) (公財)リバーフロント研究所:大河川QA ウェブセミナー,
<http://www.rfc.or.jp/daikasen.html>